

郷土文化財紹介

寺院遺跡シリーズ <薬王山東光寺遺跡>

上野本郷に「お薬師様」と親しまれる薬師堂があり、今は大洗磯前神社と併設されています。ここは今風に言うとパワースポットと言われる場所で、岐阜県指定天然記念物「大杉」、中津川市指定「大銀杏」があり、岐阜県指定重要文化財「薬師如来座像」(昭和40年指定)を大切に保存し祀っている所です。



前身の薬王山東光寺は、今の位置より少し左下方にあったとされますが位置を特定することのできる遺構はありません。ですが周辺には五輪塔が数基とその残欠を確認することができますし、周辺から採集された陶磁器類は中世のものです。薬師如来座像は南北朝の作です。これらのことから薬王山東光寺は鎌倉ないし南北朝時代に建立された寺院と言えるのではないかでしょうか。



↑薬師堂下にある
五輪塔

↓本郷集落西側古道
の脇 一石五輪塔



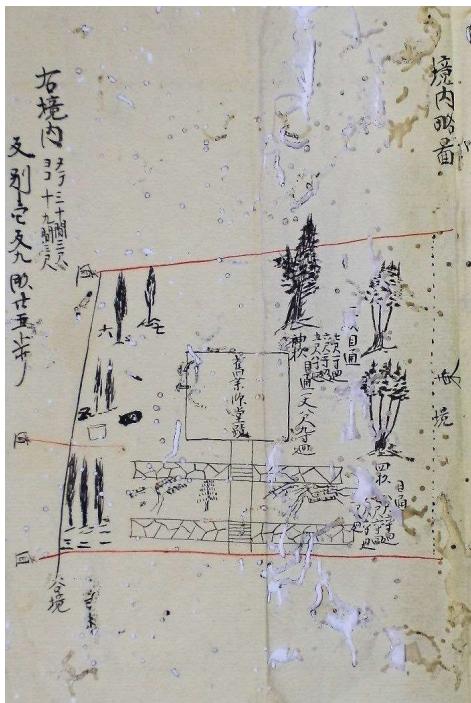
江戸時代となり徳川幕府は寺院の整理を行いますが、薬王山東光寺は上野村の祈祷寺に位置づけられ生き延びたと考えられます。上野村の行政寺、すなわち人別帳、過去帳などの管理をする寺は下野村法界寺です。両村で互いに役割分担していたのでは

ないかと考えられます。東光寺についての資料が少ない中、苗木遠山史料館に「苗木の里遊山草(安永2(1773)年、作者不詳)」という古文書があり、そこに以下のようなくだりがありますので紹介します。

・・・上野村の薬王山東光寺 薬師如来はその昔 中山道の往来にて 行き来の人馬上にて正面に当たる小坂あり ここを通る時必ず下馬落ありけるを 馬士下乗を断りける 中にも強氣の武士ありて なんぞ左様の事あるべきぞ そのまま引けと鞍つばに固く取り付け乗りけるに 鞍壺割りて左右に落ち 武士も落馬に及びければようやく助け起こし御詫言を申す 介抱せしに 命は別状なかりける これよりしてこの所をくらかけ坂といふとかや その他様々御利生新たなることありけれども 詳しくは筆には尽くし難し この往還なりしその時はいつの頃とも知れ難し 坂下村の上に黍生の渡しを越え 湯舟沢の上 神坂峠を越え 伊那の峠より陸奥へ通りし頃やらん または木曽の桟橋より 沼田の筏を渡し坂下より上野へ通りし頃やらん 訪ね問うべきにも知る人なし 思えば古き古跡よりこの森に一株にて三本立四本立なる大杉のありけるを上野の森のミスギヨスギと申

し伝う これ不思議の銘木なり ・・・>

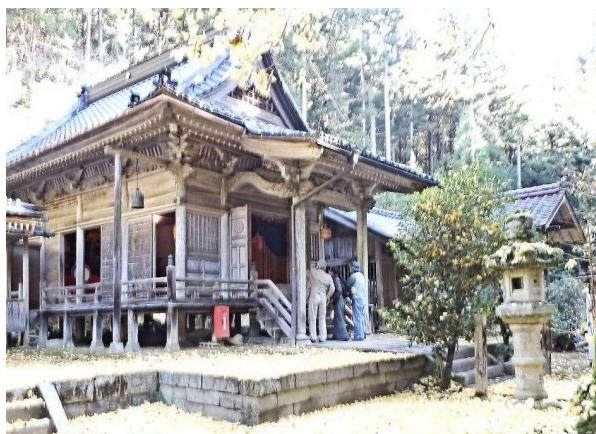
ここでおもしろいのは <薬王山東光寺薬師如来はその昔中山道の往来にて>、<くらかけ坂>、<上野の森のミスギヨスギ>でしょうか。実は「ミスギヨスギ」については、明治9年の行政文書「謹奉願候」に添えられた境内略図と明治11年「御願」控書の境内絵図面で大杉(神杉)、三杉、四杉が確認できました。その後三杉四杉はなくなり大杉が残るのみとなったわけです。また「くらかけ坂」がどの部分にあたるのか確認できれば楽しいですね。



←上野行政文書「謹奉願候」(明治19年に添えられた境内略図 神社(大杉)三社 四杉が描かれている

神杉の目通一丈八尺九寸廻 三杉目通七尺一寸廻六尺
二寸廻五尺八寸廻 四杉目通八尺六寸廻: とある

さて、明治となり廢仏毀釈で薬王山東光寺は姿を消すわけですが、薬師如来座像は住民の皆さんによって保護されていました。明治6年頃には苗木藩は解体し、明治8年には合郷八幡神社と握五社神明神社の復座が許可されました。この頃より薬師堂再建の機運が高まり許可願いを提出していますが許可されませんでした。そこで明治11年医薬、酒造の神少彦名命を祭神とする茨城の大洗磯前神社を勧請し大洗磯前神社を建立します。それに付属させることで薬師堂が再建され薬師如来像を祀り込むことができました。



↑再建され今に至る觀音堂
奥に見えるのが大洗磯崎神社

「お薬師様」と親しみをこめて呼び隣の「下野庚申様」と合わせて信仰され片方のみのお参りではご利益がないとされ、近在から大勢の人がゾロゾロと通ったそうです。まだ、本郷の古老からその様子を聞くことができました。さらに、大正12年の関東大震災の惨状に心を痛めた中津町(中津川市)の方が発願され、各地に「恵那郡新四国88ヶ所」の札所が定められますが、上野薬師堂脇の千手観音が82番と定められました(書籍「ふるさと探訪」)。その頃に作られたのではないかと思われる道標があります。今は坂下公民館駐車場の小さな花壇の中にありますが、当時坂下方面からの案内として本郷地内薬師口あたりに建てられていたのではないでしょうか。

→道標
左右 やくしみち
しものみち



←平(屋号)の五輪塔
薬師堂下の道路を西
500m程移動する
坂下地内で最も立派
な五輪塔が見られる